

## 【基調講演】

「川を活かしたまちづくり」

講師：日本工業大学 教授 佐々木誠氏

### ○本日の講義内容

1. 「つくり手」と「つかい手」の関係
2. 「まちに関わる」こと
3. 川を活用するための「アイデア」
4. 「私たち」が「いま」できること

#### 1. 「つくり手」と「つかい手」の関係

- ・「ルビンの壺」のように図と地を入れ替えて見ると見えるものが全く異なる
- ・卒業論文で研究した実験音楽の作品は、偶然性が加わることにより“(この作品の) 未来がわからなくなる”という「実験性」が生まれ、それにより作家と作品が遠ざかり、聴く人や聴く場面ごとに聞こえる音響が異なる。
- ・このように、未来を先に決めないければ、参加する側で変えることができる。  
…日常生活でこれらを実現したいという想いから、設計事務所に入るきっかけに。
- ・自分が設計を担当した集合住宅「上永谷の路地」の2階は、住人（つかい手）が時間や状況によって使い方を換えられる。
- ・このように、作品に受け手（音楽であれば聴き手、建築であれば住み手、まちであれば居住者や訪問者）が関わることにより、創造性の余地が生まれる。
- ・偶然性や自由、余白などが入ることにより、受け手のセンシティブな、センシユアスな、クリエイティブな日常がまちの魅力になる。そして、参加者の創造性が加わり、ワクワクやドキドキが生まれる。

#### 2. 「まちに関わる」こと

- ・日本の人口は2008年をピークに減少しており、今後、長期的でジェットコースターのように急降下していくと予測されている。
- ・「ハコモノをつくる」時代から、「(ハコモノを) つかう (管理する、減らす)」時代へ  
…春日部市公共施設マネジメント計画では「ハコモノ施設総量を20%削減、コストも減らす」と定めている。
- ・そのような流れの中で、単にハードだけではなく、まちにいる人、起こっている出来事にも目を向けることがますます重要になってきている。  
(ハコモノというキーワードに対して、ヒトコト)
- ・そこに住んでいる人や訪れた人が、そこである時間を過ごすとか何かハプニングが起こり、その出来事こそがまちの宝物になる。それがまちにおけるヒトコトである。
- ・春日部市と日本工業大学で締結している包括連携協定の枠組みの中で、「**かすかべ大通り沿道周辺地区における景観まちづくりプラン作成に関する研究**」をしている … 景観まちづくりワークショップ
- ・単に景観といっても物理的な側面だけでなく、人的側面、文化的側面が相まって“景観”と呼んでいる。
- ・街歩きをして、春日部にはたくさんの“宝物”があることを発見した。クレヨンしんちゃんだけではない！

#### 3. 川を活用するための「アイデア」

- ・京都の鴨川にはたくさんのカップルが集まる。(鴨川等間隔の法則)
- ・規制緩和が進み、河川空間を様々な用途で活用出来るようになってきた。
- ・国土交通省が、規制緩和後の事例の紹介として、春日部の古利根川の公園橋や広場が地域の夏のイベント会場として定着していることを取り上げている。
- ・千住いえまちの「千住まちヨガ」や、調布の多摩川河川敷で開催している「ねぶくろシネマ」など、全国的には様々な空間の活用例がある。

#### 4. 「私たち」が「いま」できること

- ・春日部市の人口の流出は、都心側でなく、北側（宮代町、幸手市）へ向かっている。東京 23 区との競争というよりも、埼玉県内の競争に負けている。
- ・都市計画とまちづくりの違いは、都市計画がトップダウンであるのに対し、まちづくりはボトムアップだということである。
- ・「まちに能動的、積極的に関わる」ということは、創造的なことであり、まちの宝物やそこにしかない魅力を知ることにより、楽しみ・ワクワクに繋がっていくことである。
- ・特別な人でなくても、子供から大人、おじいちゃんやおばあちゃんまで、全ての人がそれぞれの形でまちに関わることができる。
- ・全国 30 数か所で行われている「リノベーションまちづくり」「リノベーションスクール」のように、率先的に活動するプレイヤーを発掘、育成することも大切である。

#### ■まとめ

##### ○まちづくりに大切なキーワード

- ・実験性…結果が予測できない、予定調和ではない中で、未来をつくるのは私たちである。  
積極的にまちに関わることによって、つくりあげていくものである。
- ・持続性…ボランティアも大事だが、起こった出来事を持続させるために、お金を回すことが大切である。  
事業者も重要で、起業家を育てることも大切である。
- ・境界を越える…異文化（世代、環境、立ち位置など）の違いを理解した上で尊重しあうことが必要である。
- ・エリアを絞る…リノベーションスクールだと、半径 200m の狭いエリアに絞って空間活用することを考える。  
（今回でいうと、駅から古利根川までのちょうどいい徒歩圏内は空間資源の宝庫であり、まだまだ使える）
- ・共通する価値観…パブリックマインド（誰かのため、みんなのために役に立とう、という気持ち）を持つ。  
自分は何の役に立てるか考え、一人一人ができることをする。  
そうすると、まちを好きになって、地域資源を使いこなすことができるようになる。